

「3・11復活の森づくり」プロジェクトに参加して

木下順次(千葉市)

日 時： 2012年4月14日(土)9時～15時

天 候： 雨

担当指導員： 伊藤道男・木嶋恵子・木下順次・佐野由輝・藤田浩二・山下美佐子

昨年3月11日の震災は福島、宮城、岩手など東北沿岸部において多くの被害をもたらしました。そして、東日本大震災という名の通り、千葉県の沿岸部もまた津波や液状化の大きな被害に遭っています。千葉県山武市蓮沼の殿下海岸にある保安林も、津波で海水が入り込んだために多くの木が枯れてしまいました。なくなって初めてその役目(防潮・防風・防砂)の大きさに改めて気付いた人も多いと聞きます。現状のままで保安の役目を果たせなければ、塩害や風害、飛砂はすぐにでも周辺的环境に影響を与えはじめます。

そんな中、枯れた木を伐り、伐った木はチップにして林の中に撒いて整備し、春には主にクロマツやトベラ、マサキの苗を植樹、その後も5年にわたって下草刈りを行なっていく、という新しいプロジェクトがスタートしました。プロジェクトを立ち上げたのは、都内のNPO法人森のライフスタイル研究所という団体です。様々な企業や行政、市民団体のネットワークを活用して、昨年8月から「3・11復活の森づくり」と名付けて都内を中心にこれまで延べ650名以上のボランティアを募って何度も彼の地に足を運んで来ています。

今回、ちば里山センターの依頼をうけて、我々も参加者への植樹指導という形でお手伝いをさせて頂きました。普段行っている自然観察会とはすこし勝手の異なる活動ではありましたが、人と自然をつなげる(自然観察とはまた違う)方法を、また身近でできる被災地支援の方法を学ぶという意味で大変有意義な体験でした。これからも引き続き、この地で行われる活動を通じて、海岸林の成長を見守っていきたいと思います。

《これまでのプロジェクトの進捗》

活動内容： 蓮沼町御殿場海岸の海岸防潮林合計1.2ha(30m×400m)の復興活動

STEP①： 津波の潮に浸かりそれが原因で赤く枯れてしまった木の伐採と林内の整理活動、植林時の目印棒の設置

◇津波被害木の伐採ツアーⅠ(平成23年8月27日、28日)

◇津波被害木の伐採ツアーⅡ(平成24年1月21日、28日)

STEP②： STEP①で整備した海岸林(海岸と平行に長さ400m×奥行30m)に、クロマツやトベラ・マサキ12,000本を植林

◇海岸林再生の植林6,000本【前編】(平成24年2月25日)

◇海岸林再生の植林6,000本【後編】(平成24年4月14日)



この活動の詳細をお知りになりたい方は木下(fwg9494@nifty.com)まで